

2024 年度

# 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 晃陽学園

つくば栄養医療調理製菓専門学校

つくば栄養医療調理製菓専門学校は、令和6年度の運営について自己評価ならびに学校関係者評価委員会を実施致しました。

## 1. 開催概要

### 第1回 学校関係者評価委員会

日 程 2024年8月23日（金）13:00～15:00

会 場 つくば栄養医療調理製菓専門学校 新館3F 階段教室

議 題 1.令和6年度学校運営について

2.自己評価項目案と今年度の取り組み

3.意見交換



### 第2回 学校関係者評価委員会

日 程 2025年2月28日（金）13:00～15:00

会 場 つくば栄養医療調理製菓専門学校 新館3F 階段教室

議 題 1.令和6年度事業報告

2.自己評価結果報告

3.自己評価について

- 改善点に関する検討、提言

- 意見交換



## 2. 学校関係者評価委員

氏名（所属）	選任理由
高橋 竜夫（稻敷広域消防本部）	企業・関係団体
村山 正利（公益社団法人 茨城県獣医師会）	専攻分野に関する有識者
伊藤 久美子（茨城県立中央病院）	企業・関係団体
関 博幸（(株)つくば学園ホテル ホテル日航つくば）	企業・関係団体
安藤 謙一（茨城県職業能力開発協会）	企業・関係団体
湯原 幸子（茨城県立つくば看護専門学校）	専攻分野に関する有識者
松浦 希（社会福祉法人つつみ会）	卒業生
高田 峰夫	卒業生
小畠 悅子	在校生保護者
豊田 茂	在校生保護者

## 3. 本校職員

氏名（役職）	氏名（役職）
今井 恭子（校長）	赤星 康彦（顧問）
川島 邦子（副校長・栄養士学科学科長）	野本 英雄（副校長）
石塚 光（救急救命学科学科長）	斎藤 達也（専門調理師・調理師学科長）
矢口 旭（製菓製パン学科長）	壹岐 千夏（栄養士学科学科長補佐）
山本 勝也（事務長）	広瀬 賢二郎（広報課長）
丸尾 佳代子（教務課長）	江口 千佳（総務課長）

## 【自己評価・学校関係者評価報告書】

### 1 教育理念・目的・人材育成像

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目		評価	今年度の取り組み、現状の認識等
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	A	学園の建学の精神のもと、学校の理念、目的、人材育成像を定めている。
②	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想など が学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	A	入学時のオリエンテーションや学校パンフレット、ホームページ等で周知している。
③	学校における職業教育その他の教育指導の特色は明確 か	A	すべての学科が厚生労働省の指定を受けた養成施設であり、国家資格の取得を目指した教育課程を編成している。また、学科ごとの人材育成目標を設定して、目指す職業に就くための人材育成にも力を入れている。
④	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いてい るか	A	産学連携や企業との面談、教育課程編成委員会等を通して社会のニーズを把握し、人材育成に努めている。
⑤	各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業 界のニーズに向けて方向づけられているか	A	企業との情報交換や教育課程編成委員会等を通して業界のニーズを認識し、学科ごとに教育目標の見直しや更新を行っている。

今年度の課題	・学園の建学の精神を大切にしながら、時代に合わせた人材育成像を構築していく必要がある。
今後の改善策	・年々変化する社会の変化や業界のニーズを把握できるように、企業との交流や学会等への参加を通して情報収集に努める。
特記事項	・学校の将来構想を描く上で、社会における専門学校のニーズの地方と都市部の差異を認識できるような情報を収集できるとい。

### 【学校関係者評価委員からの意見・提言】

- ・時代に合わせた人材育成とあるが、どのような人材か、例えば「挨拶ができる人材」等、どこにポイントを置くのかを明確にした方が良い。
- ・企業との交流、学会への参加等の交流はとても大切である。教員も知識、技術、技能を身につけなければならない。
- ・学生が外部の人へ挨拶をするかしないかを、学生個人の意識に任せているように見受けられた。職業人にとって挨拶は基本で卒業後もとても大事なことである。学校がきちんと指導をすることが望ましい。

## 2 学校運営

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	A	教育理念に基づいた運営方針、目標を策定している。
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A	毎年度、運営方針を踏まえた事業計画を策定している。
③ 運営組織や意思決定機能は明確化されていて、有効に機能しているか	A	運営組織は明確化している。毎月定例で学校長・副校長・各学科長出席の運営会議を行い、運営課題や次年度の計画等について協議のうえ決定し、学内に周知している。
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	A	法人において人事・給与に関する規定が整備されている。
⑤ 教務・財務等の組織は整備され、的確な意思決定が行われているか	A	学校内の運営組織や校務分掌は毎年度見直しのうえ明示されており、各部署・各委員会での協議・検討を経て意思決定を行っている。
⑥ コンプライアンス体制を整備し、教職員の意識向上に努めているか	A	外部講師を招き、教職員を対象としたハラスメントやコンプライアンスの研修を行った。
⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A	学校ホームページやSNS(Instagram、Facebook)を通じて情報公開を行っている。
⑧ 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	A	業務に合わせたシステムを導入している。その活用が教職員に浸透しており、効率化に向けて大きく前進している。

今年度の課題	・ハラスメントやコンプライアンスの基礎的な内容について、外部講師を招き研修を行い教職員の意識向上に努めたが、周知徹底するためには更なる体制の整備と継続した働きかけが必要である。
今後の改善策	・学校独自のコンプライアンスマニュアルを作成し、教職員に周知徹底する。 ・教職員が情報システム化に慣れ、より業務に活用できるように、システムのメリット・デメリットを検証し、改善できる取り組みを行う。
特記事項	なし

【学校関係者評価委員からの意見・提言】

- ・コンプライアンスに関して、全職員に講義を行い意識の向上が見られると思われる。A評価としても良いのではないか。  
〔自己評価ではB評価としていたが、ご意見をもとにA評価とした。〕
- ・コンプライアンスについて、若者のSNS活用が問題になっているが注意をしているのか。  
〔回答：入学ガイダンス時に、SNSを使う上での注意資料を配布し周知している。定期の全校集会等でも注意を継続したい。〕
- ・ハラスメントについて、職員研修を行い先生方の意識向上はできたと思うが、生徒に対してハラスメント教育を行っているか。指導とハラスメントの線引きは難しく、就職後のこととも考えて、取り入れてもらえると離職率の改善につながるのではないか。

### 3 教育活動

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A	養成施設の基準を満たす教育課程を基本とし、本校の教育目標に沿った科目配置について毎年度見直しをしている。
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	学科ごとに目標としている国家資格や検定は明確であり、資格取得や合格に向けて授業内でフォローできる学習時間を確保している。
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A	カリキュラムは修業年限に対応し、体系的に編成している。
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A	職業教育の一環として、今年度は全学科でキャリアデザインの授業を行った。実施状況は教育課程編成委員会で報告し、次年度の職業教育に向けて意見を聴取した。
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	A	教育課程編成委員会を設置し、関連分野の企業及び有識者から意見を取り入れカリキュラム編成に活用している。
⑥ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	A	校外実習授業や外部講師を招聘した授業を行い、実習先や担当講師による学習評価を取り入れている。
⑦ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A	各学科カリキュラムに組み込み体系的に実施している。
⑧ 授業評価の実施・評価体制があるか	A	期末に科目ごとの授業アンケートを実施している。今年度は学科長、教務主任がアンケート結果を踏まえて、担当講師と授業状況の共有を行った。
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	学則および教務内規において基準が規定されており、入学ガイドンスにて学生に明示している。
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A	各学科で資格取得に向けた対策授業等をカリキュラムに取り込み、体制を整えて指導に取組んでいる。

⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	A	専修学校設置基準および各養成施設ガイドラインにある教員資格を満たす教員を確保している。
⑫	関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保に努めているか	A	各業界と連携し専門性の高い講師を招聘した授業を行っている。
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	A	教員の指導力、資質向上につながるよう外部講師を招いての研修の実施や、校外での研修・学会参加を奨励している。
⑭	多様な教育形態を実施し、授業展開の工夫がなされているか	B	次年度の授業展開の参考にするために、1月に外部講師の授業を他学科の教務主任が見学した。

今年度の課題	・多様な教育形態や授業展開を模索している。本校に入学をする学生たちの小学校～高等学校での学び方が変化をしているため、授業展開の工夫をしながら教育効果の向上を目指す必要がある。
今後の改善策	・複数の学科をもつ本校のメリットを生かし、学科を超えた授業研究や授業展開等、様々な教育方法を検討して、学生たちがより興味をもって学べるような教育形態を取り入れていく。
特記事項	・学校の近くに畠を借りて野菜の苗植えや収穫を学生と行っている。収穫した野菜を使用したコラボ給食を実施しており、今後も食分野の授業展開への活用が期待される。

#### 【学校関係者評価委員からの意見・提言】

- ・多方面での教育の工夫を怠っていないと感じる。素晴らしいと思う。
- ・キャリア教育の講座を行っていることは良いと思った。
- ・キャリア教育が充実してきたと評価できる。今後も継続してほしい。
- ・授業アンケートについて、学生からの評価に対し教員が取り組みを改善することに役立っていると思うが、学生側が自分自身を振り返ることも大切だと思う。きちんと振り返り次に向かうステップとするようなアンケート項目を追加してはどうか。

〔回答：授業アンケートは現在も学生の振り返りを取り入れているが、教員評価の方が強く感じる設問項目になっている。改めて振り返る働きかけをしていきたい。〕

## 4 学修成果

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 就職率の向上が図られているか	A	多数の企業から求人があり、就職に向けた定期的な個人面談やキャリアデザイン授業における履歴書の書き方指導、就職セミナーの開催等、就職率の向上に努めている。
② 資格取得率の向上が図られているか	A	国家資格取得に向けて、継続的な対策授業や模試などを実施し学びを深め、資格取得率の向上を図っている。
③ 退学率の低減が図られているか	B	個人面談等を通じて退学率の低減を図っているが、今年度（2025.2.3 現在）で退学率は 6.32% となり、昨年度の 5.92% よりも増加している。
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	A	卒業生や就職先との交流の中で活動状況の把握に努めている。
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	A	卒業生を招いて、講演会・意見交換会などを実施し在校生の職業に対する意識付けを高めている。

今年度の課題	・退学者については、教員が相談を受けた時点ですでに結論を決めている場合や、退学理由が教員の努力や工夫で解決できない場合もあり、対応方法に苦慮する場面があった。
今後の改善策	・退学者の低減について、個別の対応は手厚く行っているが相談を受ける前の策が必要と思われる。担任に対応の負担が生じないように出来る限り状況共有を行い、必要に応じて学科外の教職員等も対応ができるよう検討をしていきたい。
特記事項	なし

### 【学校関係者評価委員からの意見・提言】

- ・面談等の機会に学生の意識の変化により一層の目配り・気配りをして、退学率の低減を図ってほしい。

## 5 学生支援

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A	就職委員会で各学科の情報を共有し、担任と連携したキャリアデザインの授業を実施している。
② 学生相談に関する体制は整備されているか	A	担任制であるため相談しやすい環境であるが、4-③の結果を踏まえて更なる整備の必要性を感じている。
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A	学費納入は随時相談が出来る体制をとっており、期間を延長しての納入や分割納入を、相談・届出のうえで許可している。また、修学支援制度や教育訓練給付制度は対象校として継続して認定を受けている。
④ 学生の生活環境への支援は行われているか	A	アルバイトの求人情報を提供している。 ひとり暮らしを希望する学生のために学生会館を設置し、入館者に対して緊急時マニュアルや生活情報を伝えている。
⑤ 学生の健康管理を担う組織体制があるか	A	年度初めに学生全員を対象とした健康診断やアレルギー調査を行っている。また、分野ごとに必要となる予防接種や、細菌検査を実施している。
⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	A	部活動やクラブ活動の課外活動は実施体制がないが、コンクールや地域連携活動への参加を奨励し、内容に応じて支援している。
⑦ 卒業生への支援体制があるか	A	就職後の相談や再就職に対する支援を行っている。卒業生を対象とした製菓衛生師試験対策講座や、救急救命士試験の受験支援など、支援体制の拡充に努めている。
⑧ 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	B	業界との連携による再教育プログラムは行っていない。教育課程編成委員会において、需要や要望を聴取した。
⑨ 保護者と適切に連携しているか	A	学期ごとの成績通知表や、教育活動への協力等、必要な際には文書で通知をしている。必要に応じて保護者に連絡を取り、出席状況、生活態度、学業成績、体調等、情報共有に努めている。
⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	A	県内高校等からの要請による講師派遣や、インターンシップの受け入れ、職業能力開発協会依頼による実習授業（熟練技能者講習）を実施している。

今年度の課題	・卒業生が引き続き業界で活躍できるように、再就職の斡旋や、行事のお知らせ、相談受付等、支援体制の整備が必要である。
今後の改善策	・卒業生への支援体制や卒後の再教育プログラムは、教育課程編成委員会において外部の委員から聴取した意見をもとに、必要性や体制づくりを検討していく。
特記事項	・中国料理勉強会（6～10月・全10回）として、中国料理の調理技術と理論を学べる専門性の高い勉強会を企画し、卒業生や一般の方に参加を呼び掛けて実施した。

【学校関係者評価委員からの意見・提言】

- ・飲食業界の離職率の高さは業界全体で考えていく課題だと思う。離職の理由等、提供できる情報は企業に共有してほしい。
- ・自分が働いている会社が人材を求めているとき、学校に連絡すれば求人と再就職したい卒業生をマッチングしてもらえるか。
- ・学生に対する指導、地元で通学してくる学生から、遠方出身でひとり暮らしをしている学生への生活面等のサポートに感謝している。
- ・人間関係や労働環境により離職する卒業生に離職は失敗ではないと、先生からのアドバイスやサポートをお願いしたい。

## 6 教育環境

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A	施設・設備は養成施設としての設置基準に準じ整備している。今年度は経年劣化による設備の更新が重なり、順次対応をした。
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	A	学校内の実習施設は適切な管理を行っている。校外研修については十分な教育内容の提供を受けられる実習先を確保している。
③ 防災に対する体制は整備されているか	A	防災マニュアルを各部署に備えている。また安全計画の策定により、防災訓練を実施している。
④ 感染症など健康危機管理は実施されているか	A	校内に危機管理委員会を設置し、感染症の予防や感染拡大がないよう組織的に管理している。

今年度の課題	・今年度は火災に対しての防災訓練を計画し実施したが、近年の自然災害発生状況を踏まえて、教職員・学生ともに防災（震災や水害等）に関する意識の向上を図る必要性がある。
今後の改善策	・設備は経年による劣化が見られる箇所が増えてきたため、日常管理と並行し、更新計画を策定する。また、教職員が設備や備品を丁寧に取り扱うことを一層心がけ、良い状態を維持し、学生の物を大切にする心を育成できる環境づくりを行う。
特記事項	なし

### 【学校関係者評価委員からの意見・提言】

- ・意見、提言は特になく、適正と考える。

## 7 学生の受入れ募集

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	A	各高等学校で行われる進路ガイダンスへの参加、広報職員の高校訪問を通して、学校説明や在籍している学生の状況を報告。学校の情報を正確に提供するよう努めている。
② 学生募集活動は適正に行われているか	A	学生募集活動においては、正確に学校や学科の特徴、取得資格、就職状況を説明し、ミスマッチなく進路として選択をしてもらえるよう努めている。
③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報が正確に伝えられているか	A	学校ホームページおよびパンフレットに最新の実績を掲載し、誇張することなく募集活動を行うよう配慮をしている。
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	A	学生納付金は学則に則り募集要項に記載・徴収している。教材費や行事費等の実費についても、オープンキャンパス等で納入期日や概算の金額を公表し、徴収時には明細を添付している。
⑤ ソーシャルネットワークサービス（SNS）など、学生が情報収集をしやすい手段が整備されているか	A	Instagramは年々投稿が充実しており、動画も用いながら分かりやすい情報提供に努めている。
⑥ 社会人入学生を受入れる体制は整備されているか	A	社会人対象オープンキャンパスの実施や個別相談対応、教育訓練給付金の講座指定など、受け入れ体制を整備している。

今年度の課題	・現時点（2025.2.3 現在）で次年度の入学者数が今年度より低下している学科があり、募集活動の見直しや新たな方策が必要である。
今後の改善策	・ガイダンス（進路説明会）等に教員も出席し、高校生たちに職業への興味を引き出す、近年は今まで入学実績がなかった県外の高等学校からの入学者がいるため、地域の状況を踏まえて広報エリアを拡大する、Instagramの投稿内容をより親しみやすい情報にするなど、必要な情報を発信できる機会を増やしていく。
特記事項	なし

### 【学校関係者評価委員からの意見・提言】

- Instagramを活用しているとのことだが、Instagramのユーザーは20代が多く、高校生に対してはTikTokの影響力があるよう思う。

## 8 財務

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	A	予算に基づく適正な収支バランスを保持しているが、安定した学校経営の視点からは定員充足率の低下が懸念事項になっている。
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A	収支バランスのとれた予算を策定し、学校運営を行っている。
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	A	決算は寄付行為に基づき監事監査を受け、理事会・評議員会において承認されている。
④ 財務情報公開の体制準備はできているか	A	寄付行為に基づき財務情報公開の体制ができている。

今年度の課題	・施設設備の経年変化による劣化が進み、維持管理費が増大している。
今後の改善策	・財政基盤の安定を維持するために、18歳人口減少を見据えた募集活動方策の見直しや設備の維持管理の徹底に努める。
特記事項	なし
【学校関係者評価委員からの意見・提言】	
・意見、提言は特になく、適正と考える。	

## 9 法令等の遵守

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 専修学校設置基準や各養成施設ガイドラインを遵守し、適正な運営がなされているか	A	関連法令を遵守し適正な運営を行っている。
② 個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか	B	個人情報保護の対策は適正に行えるよう努めているが、扱いに対しては個々の判断やスキルによるところもあり、認識の統一ができていない。
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A	自己評価の実施をし、学校関係者委員会において評価をしており、その内容を次年度の運営に生かしている。
④ 自己評価結果を公開しているか	A	学校ホームページにて公開している。

今年度の課題	・情報システムやLINEなどの連絡ツールを活用する機会が増えたことから、教職員の情報の取扱いに関する認識を向上する必要がある。
今後の改善策	・個人情報の保護の観点から情報システムの活用について、研修会等で認識の向上に努める。 ・個人情報の取扱いについて個人の判断によらないルール作りを行う。
特記事項	なし

### 【学校関係者評価委員からの意見・提言】

- ・意見、提言は特になく、適正と考える。

## 10 社会貢献・地域貢献

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	R6	今年度の取り組み、現状の認識等
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A	地域社会のニーズを踏まえて、社会貢献・地域貢献活動に積極的に取組んでいる。
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	A	学校に要請のあったボランティア活動においては、学生も活動へ関わるよう参加を呼び掛けており、積極的に関わっている様子がみられる。
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	A	地域の方向けの公開講座を毎年開催している。また、公共職業訓練（離職者等訓練）を継続して受託している。

今年度の課題	・校外でのイベントが多い年になったため、ボランティア活動に参加をする学生に偏りがなかったか、経費や時間的な負担がなかったかを確認・検証する必要がある。
今後の改善策	・地域と関わることの大切さを学生達にも理解してもらうため、できるだけ多くの学生が活動に参加できるような働きかけを行う。 ・地域に必要とされる学校になるために、子供たちの自由研究の手助けや地域活動（清掃など奉仕活動）の実施を検討する。
特記事項	〔今年度実施した課外活動・社会貢献・地域貢献活動〕 ・公共職業訓練（離職者等訓練）受託　　・茨城県立農業大学校校外授業受入れ　・茨城県立下妻特別支援学校体験実習 ・5/24, 25：茨城スイートフェア　　・8/7：二所ノ関部屋交流企画「学科推しメシ夏祭り」　・8/20：おやこ料理教室 ・8/29：食生活改善推進員次世代リーダー育成研修会 県内大学・専門学校×「食生活改善推進員」調理実習セミナー ・9/7：イースタンリーグ出店　　・10/12～14：シンいばらきメシ総選挙　・10/18～20：NBC 災害訓練ボランティア ・11/30、12/7：公開講座（4講座）　　・12/7：土曜かっぱ塾　・12/14：うしクリスマス ・1/13：牛久シティマラソンボランティア（豚汁、救護）　・2/2：守谷マラソンボランティア（救護） ・2/22：シンいばらきメシ再集結イベント、第4回日本遺産フェスタ
【学校関係者評価委員からの意見・提言】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアやイベント参加など、年齢や学科の超えての交流はプラスになる活動。引き続き積極的に参加をしてほしい。</li> <li>・地域貢献は年々多くなっていて素晴らしいと思う。学生をいろいろな場所に出すのは大変だと思うが、活動は今後に役立てることができるため、非常に有意義だと感じる。</li> </ul>	